【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2002-125947(P2002-125947A)
【公開日】平成14年5月8日(2002.5.8)
【出願番号】特願2000-325249(P2000-325249)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｂ　5/05
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｂ　5/05　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月20日(2004.5.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＦＭＩとＢＭＩとの関係をグラフで表示する表示手段とを備える体型判定装置。
【請求項２】
個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＬＭＩとＢＭＩとの関係をグラフで表示する表示手段とを備える体型判定装置。
【請求項３】
個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩ、ＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＦＭＩとＢＭＩとの関係及びＬＭＩとＢＭＩとの関係の両方の関係をグラフで表示する表示手段とを備える体型判定装置。
【請求項４】
個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩとＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＢＭＩをブロックで表示し、該ブロックを演算されたＦＭＩとＬＭＩに基づいて色分けして表示する表示手段とを備える体型判定装置。
【請求項５】
体重値を測定する体重測定手段を更に備え、前記演算手段でＢＭＩを演算するときに測定された体重値を用いることを特徴とする請求項１から請求項４のいずれか１項に記載の体型判定装置。
【請求項６】
身長を測定する身長測定手段を更に備え、前記演算手段でＦＭＩ及びＢＭＩを演算するときに測定された身長を用いることを特徴とする請求項１または請求項３から請求項４のいずれか１項に記載の体型判定装置。

【請求項７】
身長を測定する身長測定手段を更に備え、前記演算手段でＬＭＩ及びＢＭＩを演算するときに測定された身長を用いることを特徴とする請求項２から請求項４のいずれか１項に記載の体型判定装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
【課題を解決するための手段】
本発明の体型判定装置では、個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＦＭＩとＢＭＩとの関係をグラフで表示する表示手段とを備える。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
また本発明の体型判定装置では、個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＬＭＩとＢＭＩとの関係をグラフで表示する表示手段とを備える。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
また本発明の体型判定装置では、個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩ、ＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＦＭＩとＢＭＩとの関係及びＬＭＩとＢＭＩとの関係の両方の関係を同時にグラフで表示する表示手段とを備える。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
また本発明の体型判定装置では、個人身体情報を入力する入力手段と、生体電気インピーダンスを測定するためのインピーダンス測定手段と、前記入力された身体情報及び測定された生体電気インピーダンス値に基づいてＦＭＩとＬＭＩ及びＢＭＩを演算する演算手段と、演算されたＢＭＩをブロックで表示し、該ブロックを演算されたＦＭＩとＬＭＩに基づいて色分けして表示する表示手段とを備える。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
図８でＢＭＩは３区間に分けられ、
Ｂ１区間を１８．５未満
Ｂ２区間を１８．５～２５
Ｂ３区間を２５以上としている。　また、ＦＭＩは次のように４区間に分けられる。
Ｆ１のラインをＦＭＩ適正最低値
Ｆ２のラインをＦＭＩ適正最高値
Ｆ３のラインをＦＭＩ肥満境界値
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
更にステップ１３でアップキー４１ｃ及びダウンキー４１ｄが押されているかを判断する。ここで押された場合には、ステップ１４で図１１に示す表示に切り替わる。ここで更にアップキー４１ｃ及びダウンキー４１ｄが押下されると図１０に示すグラフに戻る。このようにステップ１３でアップキー４１ｃ及びダウンキー４１ｄが押下される毎に、ステップ１４でグラフの表示が切り替わる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
一方、脂肪組織を示す色付きブロックだけに着目し見比べた場合、標準範囲に収まっている事が分かる。また、除脂肪組織を示す色なしブロックだけに着目した場合には、標準に比べ多い事が分かる。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
ステップ１３でアップキー４１ｃ及びダウンキー４１ｄのどちらも押下されていない場合には、ステップ１５で電源スイッチ４１ａが押下されているかを判断する。ここで押されている場合にはステップ１０に進み電源はオフされ、押されていない場合にはステップ１２に戻り、現在選択されているグラフの表示を続ける。